

常石ともにまちづくり推進委員会

委員長 梶原 祐爾

(問合せ先) 084-987-3839 (常石交流館)

事業内容

- (1)「育む」安心・安全① 防災啓発 防災倉庫点検 視察研修 12人
合同避難訓練(11月1日) 231人
- (2)「育む」安心・安全② 交通・防火意識啓発(年5回)実施 登下校見守り活動(課業日)
おでかけ支援事業(買物支援週4日他)
- (3)「培う」繋がり① 新成人を祝う会(8月12日) 常石交流館 26人
つねいし交流広場(10月14日) 常石ともに学園 約650人
合同夏まつり(7月22日) 常石ともに学園 約250人
- (4)「培う」繋がり② 絵手紙交流 敬老対象者 252人
- (5)「引き継ぐ」技と知識 大人のクラブ活動&子どもチャレンジ(年間通して)
常石交流館・常石ともに学園 延べ101人
トライウォーク・まちづくり研修等の世代間交流 中止
- (6)「果たす」みんな一役① 環境美化活動(4月~3月) 地域内一円
地域内一斉古紙回収(リサイクル)(4月~3月) 延べ約200人
地域内春季一斉清掃(5月14日) 294人
- (7)「果たす」みんな一役② まちづくり広報活動(年12回 A3両面 発行総数 8,800部)
- (8)「図る」地域連携による活性化① 沼隈町駅伝大会(1月14日) 沼隈運動場 運営スタッフ 57人
- (9)「図る」地域連携により活性化② 人・まち・ふくしまルシェ2023
(10月29日) 沼隈支所 想青学園とのコラボで開催 約5,000人
- (10)「支える」委員会活動 推進委員会運営事業
(年11回 委員会200人 年11回 例会262人)

成果

新たな学校が地域内に開校した年に、新しいコミュニティの場としてスタートした「つねいし交流広場」は、地域と学校が一体となった参加型のイベントとして確立した。

また、避難訓練やまつりの開催などで、今までの事業の企画方法とは異なり、各種団体が自分たちのノウハウを生かし、積極的にかかわってもらえる取り組みが芽生えた。

課題

少子高齢化・担い手不足などの大きな課題があるなかで、新たに芽生えた「まちづくり」は、どうあるべきかを意識しながら、みんなで知恵を出し合っていくことが求められる。

課題解決にむけて

少子高齢化・担い手不足などの大きな課題があるなかで、これらの息吹を大事に育て、次世代にうまくつながるように取り組んでいくことが、今後のまちづくりのキーポイントとなる。

地域と学校の共同作業で創るコミュニティ

「アンド」から「トゥゲザー」へ

他地域からも通学可能なイエナプラン実践校「常石ともに学園」の開校以来、地域と学校で、新たな負担を伴わない「コミュニティづくり」を模索してきた。1年目の昨年は、お互いの事業を午前と午後に分けて実施した。本年度は、地域と学校が、何とか1日を一緒に過ごせる方法はないものかと知恵を出し合うこととし、地域と学校で構成する「実行委員会」を立ち上げ、ともに創る「交流広場」として開催することとなった。

「アンド」から「トゥゲザー」の意識を共有し、プログラム作成・準備物の手配や運営の役割分担等の調整を行いながら、カタチが出来ていった。

今回のメインイベントは、学区民運動会で必ず最後にみんなで踊った「常石よいとこ」の復活だった。踊りの講習会を設けるなどして本番に備えた。お揃いのタオルを首から下げ、音楽に合わせて踊りが始まった。4年ぶりに復活した踊りに、運動場には笑顔あふれる3重の大きな輪が広がっていた。

